

ろんだん 佐賀



岩永 雅也さん

放送大学長

いわたが・まさや 1953年嬉野町生まれ。就学前に千葉転居。筑波大附属高一東京大卒一同大学院修了。大阪大、放送教育開発センターを経て2000年に放送大学教授、21年から放送大学長。専門は教育社会学。テニウ、馬、自転車、農作業など趣味は雑多。千葉市。

日本の海外大会での最多金メダル獲得、セーヌ川の水質、トム・クルーズの降臨など数々の話題に沸いたパリオリンピック（パリ五輪）が12日に開幕した。パラリンピックの開会は10日後の28日なので、その間は観光都市パリの日常が戻っていることだろう。今回のパリ五輪で最も強く私の印象に残ったのは、レスリングでも体操でも卓球でもなく、「初老ジャパン」の活躍、総合馬術団体での銅メダルである。

パリ五輪と佐賀国スポ

と私はみている。特に後者は、そのまま競技者と（競走馬ではない）競技用馬の育成、指導者や調教師を育てるために使われる人的・物的リソースの国内での少なさに直結する。事実「初老ジャパン」の各選手は主に西欧諸国に移り住み、そこで苦勞しつつ競技と訓練

馬への思い、新大会に期待

勝までしてくれた。もっとも、当時もとびきりのマインースポーツであったため、馬術部を持つ高校は全国でも50校ほどで予選なしに皆本大会に出場できたのだが…。

で、それも併せて4Kだったかと今になって思う。今回のパリ五輪での快挙によって、馬術が少しでもメジャースポーツに近づいていくことを心底願っている。

開催され、その後各都道府県の持ち回りで毎年続けられてきた。その国体が衣替えして実施されるのが国スポであり、その栄えある初回開催県が佐賀県である。

を続けてきたと聞く。馬術はまだ日本ではマイナースポーツの代表的存在なのである。

つたため、一つでも多くの障害を飛び越え、一秒でも早く帰ってくることを目標に、日々練習に励んでいた。人からは「優雅な趣味」と言われることもあったが、実態は3K（キツイ・汚い・危険）そのものであった。

4のタイトルの下、第1回国民スポーツ大会（国スポ）および第23回全国障害者スポーツ大会（全障害者スポ）が10月（公式会期）に開催予定である。周知のように、国スポの前身である国民体育大会（国体）は、終戦直後の1946年、戦災を免れた京都市を中心とした京阪神地域で初めて

開催する佐賀県では、これを機に「体育から『する・観る・支える』スポーツへ」をスローガンに、新たな大会の装いを企画していると聞く。大いに楽しみである。ただし、肝心の馬術競技は、諸般の事情により県内ではなく遠く離れた兵庫県三木市で行われる。少し残念である。

